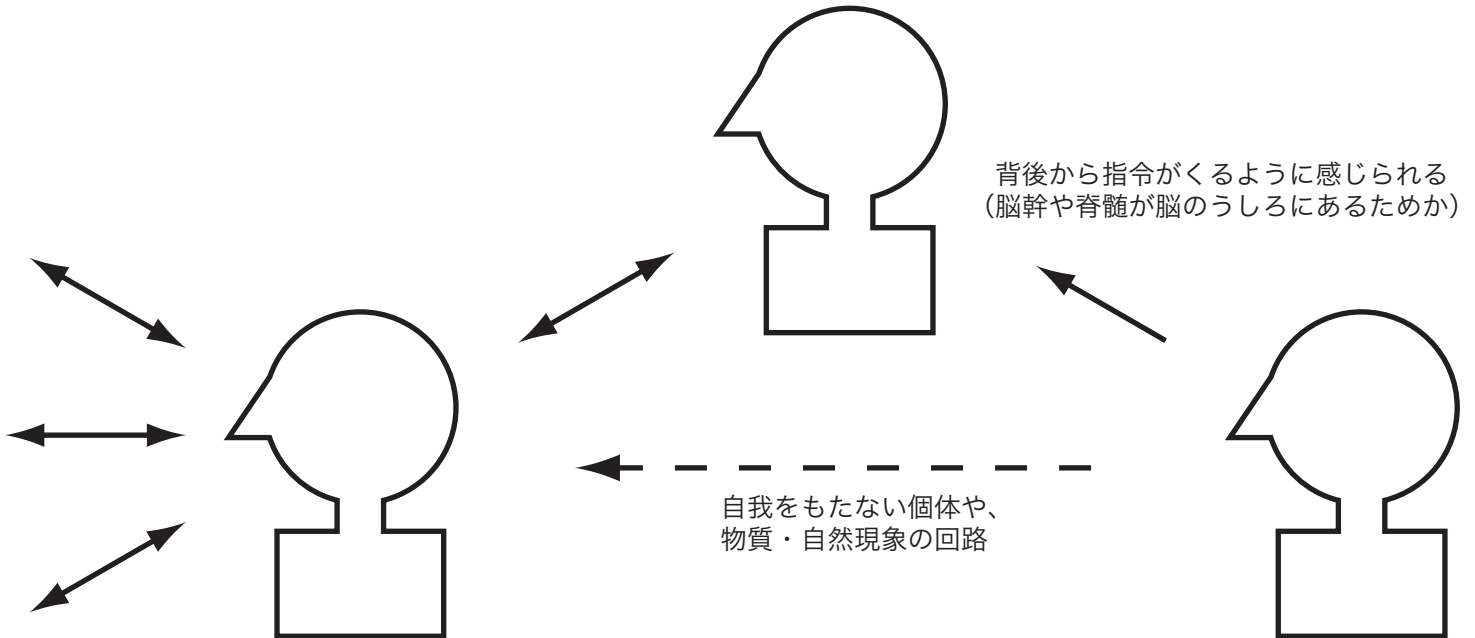


生活していて、ふと、「この自分は自分ではない」と違和感を感じることはないだろうか。私たちは「本音と建て前」「理想と現実」などと言い、心の内と外のギャップを表す。こうした現象について、私もこれまで私なりに考えてきたが、今のところ人間の存在は下図のような三重構造になっているという仮説をもっている。



メディアとしての身体

- ・物質界の法則にしたがう
- ・感覚器と脳によって
光・音・振動などの情報を集める。
- ・運動神経と筋肉によって
自身を動かし、外界に干渉する
- ・心のありよう、魂の状態を反映して
目つき・服装・振る舞いが変わる。
また、その逆もある（習慣づけによる心の支配）。
- ・基本的に、身体を介さず「世界」を認識することはできない。身体は心と魂の舞台である。
- ・なぜかはわからないが、老いて死ぬ

心・意識・自我

- ・脳という装置によって顕在化された、「世界」が潜在的に備えている「心」
- ・「私」が「私」であると認識する。
言葉が生まれるのもここである。
- ・他者と交信するためのメディアとしての身体と調和がとれていないと、それが「本当の自分ではない」と感じる
- ・脊髄・脳幹の働きによって自らを自然現象の一部に還そうとする「本能」への従属と、
大脳新皮質に代表される個人の理性が求める「自由」との板ばさみで、常に判断を迫られている。
- ・「私」は「私」から逃げられない。

魂・無意識・宇宙意識

- ・目に見える形では存在しない、世界の原理のようなもの
- ・全ての存在の基礎をなしている
- ・なぜかはわからないが、自身の存在のしかたの多様性・可能性を追求する(=進化)
- ・内なる声・本当の気持ち・仁・アイデア・物自体・第一動因
- ・存在せよ、生きよと命じる
- ・これは普遍であるがゆえに最もありふれたものである。つまり、「真理」は世界そのものである。全ての「私」全ての「あなた」がそれである。

ここでいうメディアとは、心を表現し外界と交信するための媒体と考えているので、
服装・髪型・化粧といった行動様式だけでなく、ケータイなども含まれる。
そして、芸術表現もメディアのひとつだと考える。

そのとき私はまったく違う「私」になり、しかしそのことによって、私であることを証明できる。
芸術は魔術であり、芸術家はシャーマンなのである。
芸術家が偉大なのではなく、世界が偉大なのだ。